



2022-23 年度テーマ

第 2670 地区

宿毛ロータリークラブ会報



■会長	有田 裕彦
■幹事	池 和明
■SAA	田淵 満博
■クラブ奉仕委員長	岡崎 利久
■職業奉仕委員長	岡崎 利久
■社会奉仕委員長	西田 教世
■国際奉仕委員長	秋澤 誠
■青少年奉仕委員長	西岡 弘徳

■例会日：毎週木曜日 12:30~13:30
 ■例会場：宿毛市幸町 秋沢ホテル
 ■事務所
 〒788-0003 高知県宿毛市幸町 6-43
 TEL 0880-63-3416 FAX 0880-63-3417
 URL sukumorc-test.m-quartz.com
 E-Mail sukumorc@mb.gallery.ne.jp

例会報告 第2780回 令和5年4月6日（木曜日） 天気：雨

■例会司会：田淵 SAA
 ■開会点鐘：有田会長
 ■Rソング：国歌・四つのテスト
 ■プログラム：PETS 報告

四つのテスト 言行はこれらに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

■会長報告 有田会長

こんにちは。昨日から今日の雨が花散らしの雨になったんじゃないかなと思います。昨日まで見頃の桜でした。ドローンで撮影してくれたロータリーの森を撮影してくれた映像を見ました。見事な桜で竹田さんや筒井先生には感謝します。今年は色々な所で桜の話の聞けてうれしくこれからも、活動を頑張りたいなと思いました。

■幹事報告 池 幹事

■中村ロータリークラブより：

・中村 RC ゴルフ愛好会 第 1 6 3 回ゴルフコンペのご案内

■ガバナー事務所より：

- ・ガバナー月信
- ・環境月間 リソースのご案内
- ・第 1 3 回ガバナー杯野球大会のご案内
- ・アンケートのご依頼

■菊一会より：

・岩村三兄弟胸像再建プロジェクト 最終報告

欠席届 9名

■プログラム 高瀬会員

PETS報告 岡崎会員

3月26日。日曜日に徳島市にて

会長エレクト研修セミナー（PETS）を受けて参りました。

内容についてご報告をさせていただきます。

3年ぶりに、PETSとDTTSが合同に開催をされました。

まずは、2023—2024年度 国際ロータリー

ゴールドR. マッキナリー会長方針ですが、「世界に希望を生み出そう」です。

会長テーマ、バッジについて説明がありました。

2006年、会長はタイのパーン・タリングチャム村を訪れました。

そこでは、2004年末の津波の後で、ロータリー会員が新しい家や集会場、保育所、医療施設の建設にあたっていました。そこで、ある女性が会長に近寄って来ました。悲劇に直面した女性は、やつれた様子でした。その女性は、会長に美しい貝殻をくれました。

彼女は、ロータリーがしてくれたことへの感謝のしるしとして受け取って欲しいと言いました。後日、会長は再びその彼女に会い、彼女が津波で夫、娘、息子を失ったことを知りました。津波が全てを奪ったのです。家族、家、生計を失い、そして何よりも、生き続ける希望と理由を失いました。しかし彼女は、地域社会を立て直すロータリーの活動のおかげで前向きな気持ちを取り戻し、希望が与えられたと言いました。

これは美しい貝殻です。会長は次年度のテーマとその意味を検討していたとき、この貝殻だけでなく、存命するスコットランドの最も偉大なアーティストの1人 ジョン・ロウリー・モリソン氏がよく使用する色にも引きつけられました。私は長年、彼の作品を愛し、収集してきました。ネクタイとスカーフの色を選んでいたとき、そこに世界の色を反映させ、さらに重要なこととして、次年度にロータリーが注力すべきことを反映させたいと思いました。

タイの女性との思い出とこれらの色から、会長は、今私たちが何をすべきか、どんな行動を呼びかけるべきか、テーマは何であるべきかに気づきました。

取り組むべき重点事項は5つ。

1. ロータリークラブとロータリーアクトクラブは、互いに協力し、支え合う新しい方法を見つけ続けられるかどうかは、私たちに係っています。

2. 女児のエンパワーメント

世界中の女性が強く、十分な能力を身につけた女性へと成長できるように支援するために、これまで取り組んでこられた皆さんの仕事を引き継いで行くことが求められています。

エンパワーメントの在り方について意見交換、議論をしましょう。

3. DEIを全面的にサポートすることは、単に会員数を増やすことを意味するものではありません。DEIの最も重要な側面は、ロータリーをどこからであれ最高の人材、最高のアイデア、最高のパートナーシップを受け入れるオープンでインクルーシブな組織にすることです。

DEIとはD（ダイバーシティ 多様性）

E（インクルージョン包括性）

I（エクイティ 公平）

4. ポリオの根絶に35年間取り組んで来ました。しかし、依然としてロータリーの最優先事項であることは変わりません。ビルアンドメリнда・ゲイツ財団からの上乘せを全額得るために最低5,000万ドルを集めることが重要です。しかし、寄付している会員は約12人に1人、毎年寄付しているクラブは5分の1以下です。

5. メンタルヘルス

新型コロナウイルスの世界的流行によって深刻化しているメンタルヘルスに焦点を当てることも大切です。最も傷ついている世代の1つが、教育や対人スキルを身につける機会を妨げられた子どもや若者です。

次年度以降、ロータリーはメンタルヘルスサービスの改善に取り組んでいくと述べました。

これからの活動すべてにおける目標は、破壊的な紛争から世界が立ち直れるように、希望を取り戻すことです。そうすれば、私たち自身のために持続可能な変化をもたらすことが可能となりました。ロータリーは、平和、機会、生きる価値のある未来の土台を築いています。私たちが得意とすることを継続すると同時に、変化に対してオープンで前向きになり、世界と自分自身の中に平和を築くことに力を注げば、ロータリーはより平和で、より希望のある世界を築く手助けができます。

次に、第2670地区 地区運営方針です。

国際ロータリー第2670地区2023—2024年度 ガバナーは吉岡宏美氏です。

テーマは、挑戦しよう。

1. これまでの活動を発展的に継続しよう。
2. 新たな取り組み、革新的な変化に挑戦的に取り組もう。

クラブ運営に関するお願いとして、ロータリーの活性化に取り組みましょう。クラブの状況に対応した多様性、特異性のあるクラブづくりも大切です。ロータリーは楽しい、人と人の交流、ふれあいの中で自分自身の成長を実感できる場所でないといけない。

そして、各クラブに対しては、

1. ウクライナ戦争、世界各地での紛争による難民問題等に対する「平和と希望」の取り組みや「女兒のエンパワーメント」「メンタルヘルス」「ポリオ根絶」等、対応するべき課題も多くあります。今、ロータリーが抱える課題は山積している状況にあります。
2. 必要となる資金もこれまで以上に必要となることをハリー・ラシン財団管理委員長は説明しつつ、より積極的な寄付を求めました。財団、ポリオに対する寄付の要請に応じていく必要があります。そして、米山奨学金の寄付も大切です。
・日本の寄付目標、年次基金：一人当たり150ドル、
ポールハリスソサエティの推進。
ポリオプラス：一人当たり30ドル等を参考に
3. ロータリークラブにおいても、地域のフードバンクや子ども食堂、障害者自立支援事業者と、行政を巻き込み、活動参加者と連携し、活動の輪を広げましょう。そして、活動の皆様と取り組みの大切さ、共に活動できる喜び、その成果を共有しましょう。
4. 環境保全の具体的取組として、行政等とも協働して取り組んで参りたいと考えています。木のCO2削減効果を理解する取り組み、ペットボトルの収集活動にも取り組んで参りましょう。
5. ポリオ根絶はロータリーの最重要事項です。地域の皆様とも連携し、取り組みを広げて行きましょう。
6. 会員の増強は日本においては、重要な課題です。女性会員の拡大、若者会員の増強に取り組みましょう。
7. ロータリーの活性化に取り組まなければなりません。参加者の基盤を広げ、より大きなインパクトをもたらすことに全力で取り組みましょう。
8. 地域にも生活に困窮している人びとがいます。コロナ禍で生活基盤を失った人びともいます。こうした人びとに手を差し伸べましょう。
9. クラブの連携も考えましょう。ひとつのクラブではできないことも、クラブが協働した事業を考え実施しましょう。
10. 合同のクラブ例会も考えましょう。楽しい例会になります。
11. 第2670地区にリソースセンターを開設します。他のクラブの実施事業等を情報としてお知らせし、参考として活用いただければと考えています。

以上の11項目です。

今回、直接会員増強に係る話題はなかったように思います。しかし、日本の現状（1996年の13万1千人から現在8万3千人）を考えると、会員が減少している状況を変えていく、変化させていく取り組みが必要ではないでしょうか？2020-2021シェカール・メータ会長の提唱した「みんなが1人を入会させよう」を考えてみましょう。

■ニコニコ

高瀬会員 1,000円
誕生日の御礼

■出席報告

56. 52%